学校法人日章学園 宮崎医療福祉専門学校　令和４年度の自己評価に対する学校関係者評価結果

令和５年５月２４日実施

３段階評価　Ａ：達成　　Ｂ：一定の成果あり　　Ｃ：不十分　　右の評定はA=3　B=2　C=1 で点数化

自己評定(総合)	Ｂ（2.1）	学校関係者評定（総合）	Ｂ（2.1）

教育の方針	確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。			
努力目標	自己評価	結　果　報　告	外部評価	学校関係者（外部委員）からの意見・提言
１.建学の精神をもとに医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	①毎日の朝礼とホームルームで建学の精神の唱和を行い、建学の精神を確認し、日々の教育の基とした。 ②学園努力目標及び学校と各学科の努力目標を３カ月毎に自己評価し職員会議で共通理解を図り、改善につなげた。 ③毎朝の学科内ミーティングで学生状況を常に確認・共有して、学校・学科の目標に沿う人材育成に努めた。	B	･「行動の自己評価」「結果の自己評価」が高得点となっており、努力して取り組まれていることが推察されるが、客観的に評価する指標が詳細にされていると評価しやすい。 ･建学の精神の具現化に努力され、将来医療福祉分野で活躍する学生の職業倫理を身につけることができるように実践され、すばらしいと感じる。
２.国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	B	①看護及びＰＴ養成学科においては、基礎基本の徹底と弱点克服の指導を徹底し、年間指導計画に従い実行した。 ②国家試験合格率 100％を目指して取組んだ。両学科とも 1 名ずつ不合格となったが、全国平均以上であった。	B	･PT養成学科では1名の不合格者であったが、近年では最も良い結果で、全国平均を上回り、県内ではトップの合格率であり、十分な合格率である。 ･学校全体の試験の取り組み、学生の意気込みや教員の関わり方などの結果ではないかと思うので、100％達成が継続できるようにしていただきたい。
３．学生募集の推進	A	①コロナ禍であったが、前年度同様に計画通りすべてのオープンキャンパスを実施することができ、その結果、参加者の数値目標の 115％になり、目標を達成した。 ②入試においては、受験者数は昨年より若干減少したが、入学生は看護 42 名、理学 41 名となり、定員充足を達成した。	A	･昨今の状況を踏まえると、定員充足はすばらしい成果である。県内の生徒数の減少している中で、同類の学校増加により競争が激化している。さまざまなアイデアを出して定員充足に尽力していただきたい。
４．退学生の防止	C	①各学科具体的数値目標を掲げ、数値を意識して活動した。 ②心理診断結果及びいじめアンケート調査を参考に、教員が科学的裏づけを基に学生個々への丁寧な指導を展開。また毎週初めに運営委員ミーティングを実施して、退学の恐れのある学生を確認し指導のあり方について協議を重ねた。 ③退学者数は 13 名、前年より 7 名増となった。	C	･自分で選んだ道であっても、貫徹するには、人の役に立っているという実感や、対象となる方からのレスポンスも重要と考えられる。コロナ禍の影響が大きかったと思われるので、今後の回復を期待する。 ･退学率が増加した要因を詳細に分析していただきたい。 ･入学時から退学率を軽減させる様々な取り組みをしていただきたい。
５.個を生かす進路指導の推進	B	①1年次から定期及び随時に個別面談を行い、進路希望を把握し、毎月の学科会で情報を共有し個別指導に役立てた。 ②関連施設や卒業生を学校に招請して、就職ガイダンスや進路相談会、技術指導講習等を実施した。 ③就職率 100％となった。	B	･学生の進路希望が達成できるように、進路指導が行われ、100％就職できていることはすばらしい。また、県内に約 70％就職しており、若者の県内定住にも貢献している。
６.地域連携強化の推進	B	①コロナの影響により、学園祭は学生及び教職員のみ参加で開催した。ボランティアの案内が若干しかなく数名の参加となった。そのために、障害者との交流会開催及び敬老の日にメッセージ送付などで地域との交流をはかった。 ②学校関係者評価委員会は会合が行えず、文書のみで行政担当者や県立高校長も委員として参画してもらい、学校運営に意見をいただいた。 ③台風接近にともない、地域住人の避難所を開設した。 ④本校主催のバレーボール大会もコロナの影響で中止。	B	･コロナ禍による交流自粛は共通の課題であると考えるが、地域の学校として十分に貢献されていると感じられる。新型コロナウイルス感染症は５類感染症に位置づけられたので、地域での交流の機会が増えていくと考えられる。
７.経費節減と校納金完納の推進	A	①毎月の職員会議で、水光熱･電話代の使用量を前年比数値も提示して節減意識化を促進し、総額で前年比減を達成見込み ②使用量の多い印刷機の紙使用量を毎週末に計測記録し、前年度同時期の量と比較しながら、随時職員へ情報提供した。 ③校納金は前期、後期とも完納であった。	A	･光熱費が高騰するなかで、総額が前年より減額していることはすばらしい。節減意識化の効果があると考えられる。 ･DX推進を積極的に取り組んでいただきたい。

※「外部評価」は７名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評定です。「学校関係者評定（総合)」は名の「外部評価」７項目の平均を四捨五入した結果の評定です。